



南極ものがたり

No.19



◆ いったい此処は何処なんだ？

隊員の宿舎は、管理棟を中心とした基地主要部にある居住棟、夏期間だけ開く第1夏期隊員宿舎（食堂、風呂、トイレあり）、第2夏期隊員宿舎（水回りなし）の3つがあります。居住棟は、越冬交代までは56次越冬隊員が生活します（ただし、57次の女性隊員は居住棟）。57次隊は、夏期隊員宿舎に分かれます。

6時起床。6時半から朝食（第1宿舎）、7:45朝礼（第1宿舎前）があり、仕事場へ向かいます。朝礼前にはラジオ体操を行います。日焼け防止のため、目出し帽やネックウォーマーで顔を覆います。ヘルメット、皮手袋、サングラスも必需品です。後藤隊員の「おはようございます」から始まり、各担当リーダーから本日の作業内容、作業人員、安全留意事項の説明があります。次に、二人一組で向かい合い、後藤隊員の掛け声に合わせて、互いに「ヘルメットよし！、あご紐よし！顔色よし！服装よし！足元よし！」と指さし確認をします。最後に「今日も一日、ご安全に！」と唱和して朝礼が終わります。そして、トラックの荷台に吸い込まれ・・・。

こんな日々が続き、「いったい此処は何処なんだ？」「自分は何やってんだ？」「南極に何しに来たんだ？」と悶々としはじめました。時折、作業現場から遠くに目をやると見える南極大陸に「やっぱりここは南極なんだ」と確認をしていたのでした。



ラジオ体操



設営現場から南極大陸を望む

◆ JARE57 隊員紹介

後藤 猛 (47) 夏隊 建築・土木担当 東京都出身
飛島建設株式会社

千葉日大一高から日本大学生産工学部建築工学科に進学。湘南の街おこしプロジェクトコンペで入賞したことも。現職場では、コンストラクション・マネージャーとして、行程・品質・安全管理を統括する。成田空港や東京メトロの改良工事等に携わる。36次隊より、毎年1名の社員が南極へ派遣されている。年齢的に無理かとも考えていたが、仕事内容やタイミングが重なり今回の派遣となった。昭和基地では、夏の設営作業全般の人員配置などを管理し、短期間の工事が滞りなく進捗できる運営を担う。また、様々な職種の方々から刺激を受けることが楽しみとのこと。皆さんへは「**本当につらいことがあったときは、投げ出していいんだよ**」と温かい言葉。御自身が若い時、仕事関係で思い悩んだことがあったそうです。

南極授業プレリハ中、隣の設営現場で突然流れる本校校歌。BGMにして覚えてもらっている様子。そして本番、南極に響き渡る隊員の皆さんの歌声。感謝感激でした。



朝礼のあいさつ

◆ ペンギン現る

25日。設営現場に突如、1匹のペンギンが現れました。海から上陸したものの迷ったのでしょうか。土と岩だらけの作業現場には似つかわしくありませんが、作業中の隊員には癒しの使者。作業の手を休め、カメラを構え、皆で寄ってたかって、ペンギンを追いかけてまわりました（ペンギンは「グァー」と鳴きます）。南極では、ペンギンには5m以内に近づいてはいけないルールがあります（ただし、向こうから近づくのはよい）。ルールを破っているようにも見えましたが、そこはご愛敬。その後、基地のあちこちで見かけたという情報が。

隊員への思わぬクリスマスプレゼントになりました。



強気な表情



現場から逃走

2016.2.13.